

東京消防庁の救急活動／業務 Emergency Medical Services in TFD

回答日 2014年3月15日、データの時点は2013年4月

救急要請電話を受信してから6～7分で現場に到着するまでの体制

* 救急とは傷病者を安全迅速に医療機関に輸送する仕事／業務／service

* 1935年、警視庁消防部の6消防署に消防車が1台ずつ配置された。

* 1983年4月、2965市町村に4141台の救急車を常備

* * 消防博物館 新宿区四谷

東京消防庁 総合指令室 災害救急情報センター

対象地区：東京23区+多摩地区（25市3町1村）。

対象人口：1312万人、667.1世帯。

消防署の数：81署。全職員数：18152人、うち消防士6727人、

救急隊

救急隊員数は2130人。救急車は236台。

（年間）救急出動件数74.2万件、64.9万人を搬送、1台が1日に8.7回出動。

交替制の体制：三交替、3週間サイクル。4週間で9日の休日

現場到着までの実際の時間は全国平均で6～7分。

到着の目標時間はない。通報者の所在や目標がはっきりせず聴取が長引くことがある。

総合指令室の体制と手順

1日の受信数は3000件。うち出動回数は2027回。

通報の受信に毎日30人、全体で130人が4交代で勤務。

4交替とは、朝～夕～夜～朝+当日非番→休日というサイクル

- 10数名が119番通報を受け付け、部隊を編成し（消防車の車種や出動台数の編成）〔直近の救急隊、ないし移動中の隊、それが出動中なら近くの隊〕、消防隊との無線交信もする。
- ほかに数名が救急隊と交信し、病院連絡をする。救急隊も通報者と交信して容体を確認。
- さらに全体の監督者（複数）も

救急通報の実態。出動不要という判断は？：

「酒を飲みすぎた」「指を切った」もある。傷病であるかぎり出動。

救急隊の事後報告は： 特別な場合のみ

現在の問題点や改善方向。救急車／隊員数は不足か：

トリアージができない。聴取の時間の無駄を減らして到着時間を短縮。

救急病院からの受け入れ拒否に対する対応：

救急医療の東京ルール（2009年8月）：5か所の医療機関に拒否された時は、地域内の医療機関の連携体制を基盤とし受け入れ先の調整を依頼する。

End